令 和 6 年 度

研 修 の あ ゆ み

― 年　報 ―

山 形 県 青 年 の 家

目　次

はじめに「ご挨拶　～年報発刊にあたって～」

１　令和６年度　運営のあり方…… 1

２　事　業

（１）ＹＹボランティアビューロー …… 2
（２）ボランティア指導者研修会 …… 6
（３）青少年ボランティアセミナー …… 7
（４）青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」運営 …… 8
（５）未来を守る青少年防災フォーラム2024 …… 11
（６）地域をつくるリーダーセミナー …… 13
（７）持続可能な社会づくり体験１、２ …… 14
（８）若者自立支援体験活動１、２ …… 16
（９）家庭教育支援事業１、２、３ …… 18
（10）Ｙボラフェスタ2024 …… 21

３　令和６年度研修利用団体一覧…… 22
４　令和６年度研修利用状況…… 24
５　令和６年度研修実績一覧…… 26
６　組織及び職員構成…… 27

研修事業の移り変わり（過去５年間）

区分	令和２年度	令和３年度	区分	令和４年度	令和５年度	令和６年度
青少年ボランティアの育成・支援	YYボランティアビューロー	YYボランティアビューロー	青少年ボランティアの育成・支援	YYボランティアビューロー	YYボランティアビューロー	YYボランティアビューロー
	・YYボランティアの集い ・ボランティア関係者研修会 ・ボランティア実技研修会 ・地域と学校の防災力を高める研修会 ・TAT（TEAMオールてんどう）プロジェクト②	・YYボランティアの集い ・ボランティア関係者研修会 ・ボランティア実技研修会 ・地域と学校の防災力を高める研修会 ・TAT（TEAMオールてんどう）プロジェクト②		・ボランティアの集い ・ボランティア指導者研修会 ・ボランティア実践セミナー ・青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」支援	・ボランティアの集い ・ボランティア指導者研修会 ・ボランティア実践セミナー ・青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」支援	・青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」支援 ・出前講座 ・ボランティア指導者研修会 ・青少年ボランティアセミナー
次世代を担うリーダーの育成	次世代の地域づくり中核人材育成事業 TATプロジェクト①③	次世代の地域づくり中核人材育成事業 TATプロジェクト①③	青少年による地域活動の支援	次世代の地域づくり中核人材育成事業	次世代の地域づくり中核人材育成事業	次世代の地域づくり中核人材育成事業
	地域をつくるリーダーセミナー	地域をつくるリーダーセミナー		・青少年防災・減災未来フォーラム ・地域をつくるリーダーセミナー ・持続可能な社会づくり体験「SDGs×スポGOMI」「SDGs×地域文化」	・青少年防災・減災未来フォーラム ・地域をつくるリーダーセミナー ・持続可能な社会づくり体験「SDGs×スポGOMI」「SDGs×地域文化」	・未来を守る青少年防災フォーラム ・地域をつくるリーダーセミナー ・持続可能な社会づくり体験「SDGs×スポGOMI」「SDGs×地域文化」
現代的課題への対応 青少年にかかわる	若者自立支援活動 家庭教育支援研修会	若者自立支援活動 家庭教育支援研修会	現代的課題への対応 青少年にかかわる	・若者自立支援体験活動「スポーツでわいわい」「アートでわいわい」 ・家庭教育支援研修会「食育×スポーツ」「コミュニケション×アート」	・若者自立支援体験活動「スポーツでわいわい」「アートでわいわい」 ・家庭教育支援研修会「食育×スポーツ」「コミュニケション×アート」	・若者自立支援体験活動「スポーツでわいわい」「アートでわいわい」 ・家庭教育支援事業「スポーツ de SDGs」「青年の家 de 寺子屋」「アート de SDGs」

表紙　写真　上：『ＹＹボランティアフェスタ2024』、『アート de SDGs』の集合写真
中：『映画「有り、触れた、未来」自主上映会』、『SDGs×地域文化』の集合写真
下：『地域をつくるリーダーセミナー』内陸会場、庄内会場の集合写真

ご挨拶　～年報発刊にあたって～

所長　吉　田　晴　美

「自立と共助の精神に満ちた青少年の育成」を目指す本所の事業が滞りなく進み、ここに令和６年度「研修のあゆみ－年報－」の発刊を迎えることとなりました。関係各位及び利用者の皆様の熱心なご活動はもとより本所運営に頂きましたご支援、ご協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。本所は管理企業体による管理部門と事業を運営する指導部門の連携のもと、今年度も青少年の社会力の育成、社会教育と学校教育の連携及び青少年の健全育成の実現に向けて業務を進めてまいりました。

管理部門を担当する管理企業体は、青年の家の理念及び運営方針を踏まえながら、利用者の皆様のニーズに沿った施設運営と安全・安心な施設維持管理に努めております。

指導部門を担当する研修課・庶務課は、３つの運営の重点のもと主催事業に取り組んでおります。ここでは現代社会の課題と本所運営との関連から、本年度事業の特記事項について説明申し上げます。

⑴　青少年ボランティアの育成・支援に係る研修

「夏の体験ボランティア」の参加者数は前年比128％と大きく伸び、1780名の中・高校生の参加を得ました。また、「Ｙボラフェスタ」では187名のYYボランティアサークル員等が集まり、イベント開催を通し、相互の活動理解を図ることができました。多くの参加者を得たことは、コロナを経てボランティアに対する中･高校生の活動意欲が復活した証左であると考えます。加えて本所コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」は、活動の一つである小児がん支援の山形Make Lemonadeプロジェクトの認知が広がり、メンバー活動のみならず学校等でも取組みが進むなど、多くの青少年に対して体験を提供することができました。

⑵　青少年の地域活動の支援に係る研修

本県においても幾度も豪雨災害、震災を経験し、近年、防災・災害ボランティアへの青少年の関わりに対し、高い関心が地域社会・青少年の両者から寄せられています。その声に応えるべく「未来を守る青少年防災フォーラム」では、青少年の災害への意識の啓蒙に努めました。さらに今年度は関連事業として、「有り、触れた、未来」映画上映会を開催し、多くの鑑賞者から感動の声を頂きました。また、「地域をつくるリーダーセミナー」では各高校の生徒会役員たちを中心に、実際に地域視察に行き、地域課題の解決策を考えることで、地域の魅力の再発見と発信の場を提供することができました。

⑶　青少年に関わる現代的課題への対応に係る研修

若者自立支援体験及び家庭教育支援事業として、軽スポーツ、アート活動及び学習支援の各事業を実施しました。現代的課題は個別化・複雑化が進んでおりますが、支援の一助となるような研修を今後も計画してまいります。

学校現場は、学校に求められる現代社会からの要請への対応が急務であり、生徒の社会力育成、特にボランティア精神の育成や地域づくり活動等に充分な時間をもつことが難しい現状と拝察します。本所では学校等にて担い難い教育部分を支援する体制の整備に努めておりますので、是非、今後とも本所の研修及び出前講座等をご活用いただきたいと存じます。

結びに、予測困難な未来を生きる青少年たちが、多様な活動や交流を通して持続可能な社会づくりに参画し、力強く生き抜くことができるよう、本所はこれからも青少年育成の充実・発展を目指してまいります。関係各位におかれましては、今後とも本所への一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

1　令和６年度　運営のあり方

Ⅰ　教育目標

多様な活動や交流をとおして持続可能な社会づくりへの参画を促し、自立と共助の精神に満ちた青少年を育成する。

Ⅱ　運営方針

1　人や社会との関わりにつながる多様な交流・体験活動の機会や情報の提供を通じて、地域社会への主体的な参画を促し、青少年の社会力の育成に努める。

2　学校及び関係機関・団体との連携を通じて、社会教育と学校教育をつなぎ、次代を担う人づくりに努める。

3　安全・安心な施設管理とコミュニケーションを重視した心の通う施設運営を通じて、豊かな人間関係づくりを支援し、青少年の健全育成に努める。

Ⅲ　運営の重点

1　研修プログラムの開発・提供（主催事業）

⑴　青少年ボランティアの育成・支援に係る研修

①　青少年ボランティア活動及び指導者への支援の充実

②　青少年の社会貢献に係る興味関心を学びと実践につなげる研修の提供

③　ボランティアサークル「nicoこえ」の活動充実

④　出前講座の提供拡大

⑵　青少年による地域活動の支援に係る研修

①　地域のよさや課題を捉え、地域の人との協働につながる研修の提供

②　SDGsを体験的に学ぶ機会の提供

③　未来を守る青少年防災フォーラムの開催

⑶　青少年に関わる現代的課題への対応に係る研修

①　特別な事情を有する青少年の自立支援に資する体験機会の提供

②　子どもと一緒に参加でき親子に笑顔が生まれる家庭教育支援研修の提供

（新規事業：「青年の家 de 寺子屋」の充実）

③　スポーツやアートなど多様な研修プログラムの開発・提供

2　地域青少年ボランティア活動推進事業（主管事業）

⑴　中高生の心に届ける「夏の体験ボランティア」キャンペーンの展開

⑵　学校・市町村・関係団体等への支援に資する情報収集と提供

3　次世代の地域づくり中核人材育成事業

＊「地域をつくるリーダーセミナー」と兼ねる

4　関係機関・団体等との協働の推進

⑴　研修プログラムの質の向上に資する多様で新しい関係者との協働の推進

5　青少年のICT環境に対応した広報の推進

⑴　青少年に「伝わる」「つながる」ことを重視した広報の充実

6　施設の有効利用と安全管理

⑴　県民の多様なニーズに応えられる施設運営と広報

⑵　定期的な施設・設備の安全点検による事故防止

⑶　熱中症を含む防災・防犯に資する安全管理マニュアル点検改善と各種訓練の実施

2　事　　業

（1）YYボランティアビューロー

1　YYボランティアビューローについて

県内の地域青少年ボランティア（YYボランティア）の中央センターとして、YYボランティアの活動や関連事業の情報収集に努め、InstagramやX、YYボランティアビューローホームページを通じて積極的に県内外に発信した。各種SNSのフォロワー数も着実に増加している。

「夏の体験ボランティア」については、コロナ禍明け増加に転じた昨年度よりもさらに実施団体や参加者が増え、大きな成果に繋がった。また、「出前講座」の実施数についても増加し、24の学校・団体等で実施できた。YYボランティアの活性化を図るために、今年度は周知ポスターを作成し、県内全中学校・全高校に配布し、掲示を依頼した。

2　山形県地域青少年ボランティア推進会議

地域青少年ボランティアの活性化を図るために、ボランティアサークルの指導者や学校・教育行政・社会福祉協議会など幅広い関係者に推進委員を引き受けていただき、様々な見地から意見や助言・提言をいただいた。（第１回、第２回ともリモート開催）

第１回の会議では、本事業の事業計画や高校３年生のボランティア活動の現状と課題を報告した。協議では、県内青少年ボランティア活動の推進に向けて、「学校又は地方自治体を取り巻く課題とボランティアサークルとの連携」、「持続可能なYYボランティアサークルの在り方」、「情報発信における中央・地区センター、関係諸機関との連携」等について意見や情報を交換した。

第２回では、一年間の活動報告を行った後、本県の「青少年ボランティア活動についての課題の整理とその改善策」、「中高生に対するYYボランティアサークル活動の推進体制」等について話し合い、全体共有を行った。

〈推進会議委員〉　※敬称略

松田　道雄（尚絅学院大学 人文社会学群 教授）
井苅　香純（村山地区YYボランティア指導者）
井上多加志（最上地区YYボランティア指導者）
小川　真実（置賜地区YYボランティア指導者）
須貝俊太郎（庄内地区YYボランティア担当者）
三瓶　淳子（県社会福祉協議会地域福祉部）
髙橋　陽介（ひがしねあそびあランド主幹）
沼澤　欣一（県立霞城学園高等学校副校長）
石山　重典（天童市立第四中学校長）
丹野　　学（県立山形北高等学校長）
軽部隆一郎（県教育庁義務教育課指導主事）
菅原　航平（県教育庁高校教育課指導主事）

3　YYボランティアサークル支援

中高生へのYYボランティア活動ＰＲのため周知ポスターを作成し、県内全中学校、全高校へ配布、掲示依頼した。また、職員が学校や団体、その他の施設に出向いて、今後の様々な活動を円滑に行えるようなアイスブレイキングや県内サークルのボランティア実践例などの紹介を含めたボランティア講座等の出前講座を実施している。

今年度は、YYボランティアサークル同士の交流、活動を広く県民にPRすることを目的とし、モンテディオ山形ホームゲーム会場で「Yボラフェスタ」を開催し、多くの中高生ボラン

ティアの参加を得たことを含め、大きな成果を挙げることができた。

〈出前講座〉

・内容：アイスブレイク（集団づくり）
　　ボランティア講座など
・実施団体・受講者数（指導者含む）：
４月…東桜学館高校180名／天童高校124名／山形東高校253名／上山明新館高校170名／谷地高校59名／寒河江工業高校89名／山形学院高校234名／谷地高校117名／山形大学工学部フレックス52名
５月…美しい山形最上川フォーラム331名／山形西高校43名／山形北高校40名
６月…ソニー生命97名／藤島Ben's14名／山形北高校31名／上山明新館高校22名
８月…山形市社会福祉協議会24名／山形城北高校37名／飯豊町青少年育成町民会議24名／山形東高校23名
９月…寒河江工業高校22名
10月…飯豊中学校58名
11月…赤湯中学校７名
２月…最上中学校６名
（以上24団体、総受講者数2,057名）

４　情報の収集・提供及びホームページ

⑴　『山形県の青少年地域活動団体一覧』

12月に、地区ごとの団体数、人数、年代構成等について年一回の調査を実施している。

2024年12月現在活動中の団体は、YYボランティアサークルが48団体（876名）、青年団体が85団体（1,623名）である。内容はデータとして編集し各サークルはじめ関係機関に送付して情報を提供した。YYボランティアサークルは２増、会員数は93名増加した。

⑵　ホームページの運用

各地区教育事務所やボランティアサークルからの情報提供だけでなく、青年の家職員が現場に出向き取材した内容など、頻繁に更新し、情報の発信に努めている。また、ホームページへの閲覧誘導や青少年ボランティア活動の推進を目的としてSNSを利活用し、インスタグラムでは日常の話題を含め、YYボランティアサークルの活躍の様子、青年の家コーディネートボランティアサークル「nico こえ」の話題などをアップし、投稿165、フォロワー3,233、フォロー3,820（2025．３．４現在）になっている。また、Xにおいてもインスタグラムと連動し、ホームページへの誘導に貢献し131件のポスト、809フォロワー、1,180フォローとなっている。
（2025．３．４現在）

５　夏の体験ボランティア

各サークル及び団体・施設からボランティア企画を集めて地区ごとにリーフレットとしてまとめ、県内の中学生及び高校生の全員、市町村教育委員会等の関係機関に配布して、ボランティア体験が可能な場の情報を提供した。

中高生のボランティア活動へのニーズの高まりを受け、昨年度よりもさらに企画数を増やすべく、受け入れ先の新規開拓を含めて広報活動を積極展開し、企画数を大幅に増加させること

ができた（昨年度89企画、協力団体74→今年度179企画、協力団体80）。参加者数も昨年度の1,387名から1,780名と大きく増加した。それでも、受け入れ先からは「定員を上回る募集があり、お断りをしなければならなかった」との感想・意見が多く寄せられた。また、青年の家職員が可能な限り活動場所を訪れ、取材を行い、その様子をSNSやYYボランティア・ビューローHPで紹介した。

6　高校３年生のボランティア活動実態調査

県内の全日制の高等学校に依頼して、調査紙を配布し回収する形で、高校３年生を対象とした調査を行った。県内の全高校生の在学中のボランティア活動経験率74.7%（公立高校78.8%、私立高校67.6%）となり、昨年度よりも経験率がダウンした（昨年度経験率77.0%、公立高校81.6%、私立高校68.2%）。ただし、学校の活動以外におけるボランティア経験率はアップしているのは望ましい傾向である（昨年度33.1%→今年度35.1%）。

高校生が取り組んでいるボランティア活動の分野は環境整備（38.7%）、文化振興（27.1%）、子育て支援（9.8%）などであった。また高校生が関心を持つボランティア活動分野として文化振興（21.9%）、環境整備（18.0%）、子育て支援（15.1%）の順になった。

7　成果・課題

⑴　成果

①YYボランティア中央センターとして、県内４つの地区センターと連携し、市町村教育委員会や県・市町村社会福祉協議会等、関係機関と情報共有・情報交換に努め、協働的に青少年ボランティアの推進を行うことができた。

②YYボランティアビューローとしての活動を活発化し、出前講座の実施回数の増加、夏の体験ボランティアの企画数・参加者数の増加などにつなげることができた。また、新たな試みとして「YYボランティアフェスタ」を開催し、YYボラティアの活動を大いにPRする機会を持つことができた。

③青少年ボランティアの広報･推進に関して、SNSを最大限活用し､中高生に直接届くような情報発信を心掛け､フォロワー数が増加した。

⑵　課題

①「YYボランティア」の認知度が依然として低い。地区センターとも連携して広報に努め、サークルの活動活性化の後方支援をしていく必要がある。また､YYボランティアの活動周知に加え、サークル同士の交流などの機会も創出できないか検討を要する。

②中高生向けのボランティア募集のプラットフォームを作成できないか、関係機関と連携して模索していく。

③青少年のボランティア活動の推進のためには、中学校・高校でのボランティア活動の経験が自発的なボランティア活動の入口になり得る。そのような意味で、学校におけるボランティア活動の意義を引き続き啓発していく。

8　参考数値

(1)　令和６年度　青少年地域活動団体の状況

【サークル数の状況】　**【サークル会員数の状況】**

①　YYボランティアサークル

地　区	R５	R６	増減
村　山	16	16	0
最　上	10	10	0
置　賜	7	9	2
庄　内	13	13	0
県全体	46	48	2

①　ＹＹボランティアサークル

地　区	総　数		男　子		女　子		小学生		中学生		高校生		大学生等		勤労青年	
	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６
村　山	256	288	63	63	193	225	0	0	82	90	155	174	11	14	8	10
最　上	131	140	25	36	106	104	0	0	13	18	104	106	12	12	2	4
置　賜	162	156	38	42	124	114	54	32	67	61	41	61	0	0	0	2
庄　内	234	292	70	95	164	197	0	0	117	146	117	107	0	8	0	31
県全体	783	876	196	236	587	640	54	32	279	315	417	448	23	34	10	47

②　青年地域活動団体数

地　区	R５	R６	増減
村　山	31	31	0
最　上	8	8	0
置　賜	32	29	－3
庄　内	9	17	8
県全体	80	85	5

②　青年地域活動団体数

地　区	総　数		男　子		女　子		小学生		中学生		高校生		大学生等		勤労青年	
	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６
村　山	593	670	171	176	422	494	0	0	2	2	7	6	447	508	137	154
最　上	102	99	52	38	50	61	0	0	2	0	19	18	14	22	67	59
置　賜	530	541	310	315	220	226	8	12	4	7	11	26	153	139	354	357
庄　内	131	313	71	166	60	147	0	0	1	10	43	31	47	251	40	21
県全体	1,356	1,623	604	695	752	928	8	12	9	19	80	81	661	920	598	591

③　合計（①＋②）

地　区	R５	R６	増減
村　山	47	47	0
最　上	18	18	0
置　賜	39	38	－1
庄　内	22	30	8
県全体	126	133	7

③　合計（①＋②）

地　区	総　数		男　子		女　子		小学生		中学生		高校生		大学生等		勤労青年	
	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６	R５	R６
村　山	849	958	234	239	615	719	0	0	84	92	162	180	458	522	145	164
最　上	233	239	77	74	156	165	0	0	15	18	123	124	26	34	69	63
置　賜	692	697	348	357	344	340	62	44	71	68	52	87	153	139	354	359
庄　内	365	605	141	261	224	344	0	0	118	156	160	138	47	259	40	52
県全体	2,139	2,499	800	931	1,339	1,568	62	44	288	334	497	529	684	954	608	638

(2)「夏の体験ボランティア」参加者数の推移

●企画数および各地区ごとの参加者数の推移

		2017年（H29）	2018年（H30）	2019年（R１）	2020年（R２）	2021年（R３）	2022年（R４）	2023年（R５）	2024年（R６）
（企画数）		126	133	128	＊	30	52	89	179
（参加者数）	村山地区	398	654	650	＊	135	310	723	956
	最上地区	175	216	223	＊	45	72	70	80
	置賜地区	275	361	248	＊	98	130	250	295
	庄内地区	389	483	230	＊	66	232	344	449
	県全体	1,237	1,714	1,351	＊	344	744	1,387	1,780

（注）・令和２年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施しなかった。
・平成29年から「夏の体験ボランティア」として実施。それ以前は「季節の体験ボランティア」として夏と冬に実施。

●企画数および参加者数内訳の推移

		2017年（H29）	2018年（H30）	2019年（R１）	2020年（R２）	2021年（R３）	2022年（R４）	2023年（R５）	2024年（R６）
（企画数）		126	133	128	＊	30	52	89	179
（参加者数）	小学生	36	19	23	＊	9	6	121	45
	中学生	247	249	280	＊	104	186	349	453
	高校生	830	1,159	896	＊	174	499	636	954
	大学生等	17	49	55	＊	3	1	16	39
	その他	58	115	45	＊	23	19	146	109
	担当職員	49	123	52	＊	31	33	119	180
	県全体	1,237	1,714	1,351	＊	344	744	1,387	1,780

（注）・令和２年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施しなかった。
・平成29年から「夏の体験ボランティア」として実施。それ以前は「季節の体験ボランティア」として夏と冬に実施。

（2）ボランティア指導者研修会

1　ねらい

⑴　ボランティア指導者が一堂に会し、アイスブレイキングや茶話会を通して親睦を深めるとともに情報交換を行う。
⑵　災害ボランティアの実際と青少年ボランティアの関わり方を学び、考える。
⑶　ボランティア指導上のリスクマネジメントを様々な事例を通して学び、考える。

2　期日・会場

令和６年５月24日（金）・山形県青年の家

3　参加対象

市町村教育委員会社会教育担当課職員
青少年ボランティアサークル担当者
中学校・高等学校の先生方
社会福祉協議会ボランティア担当者等

4　日　程

9:45　オープニング
10:00　アイスブレイキング
　講師：土橋明晃（青年の家研修主査）
10:30　講演およびワークショップⅠ
　「災害ボランティアを学び、考える」
　講師：山口大希　氏
　　（山形県社会福祉協議会）
12:00　写真撮影
12:10　昼食・休憩
13:00　講演およびワークショップⅡ
　「青少年ボランティアにおけるリスクマネジメント」
　講師：鹿野　純　氏
　　（弁護士・伊藤三之法律事務所）
14:45　交流茶話会「YAMASEI-Café」
15:30　アンケート入力
15:45　クロージング

5　参加者（24名）

・生学課、教育事務所　４名
・市町村教育委員会　７名
・社会福祉協議会　10名
・県関係　１名
・学校関係　２名

6　成果・課題

⑴　成果
①山口氏の講演に関しては、実際に能登半島で活動されたお話や映像を見させていただいたことで、よりリアルに「災害」を捉えることができ、また、中高生がいかにして「災害ボランティア」と関わっていくべきかを考察できた。
②鹿野氏の講演では、意外と身近にあるリスクについて学ぶとともに、対処法についても知ることができた。ボランティア活動等の同意書についてもわかりやすくかつポイントを押さえたものが重要であることを学んだ。
③茶話会では、参加者の皆さんが笑顔で交流していただけた。人と人との繋がりの創出や、日頃の悩み・課題等を共有して活かすことができる、大変有意義な時間であった。
⑵　課題
①「もっと話し合いの時間が欲しかった」「もっと多くの事例を提示してほしい」等の意見がいくつか出た。
②複数回の実施や宿泊研修の要望も出ているため、今後の検討課題としたい。

（3）青少年ボランティアセミナー

1　ねらい

ボランティアに携わる青少年等のボランティアに対する理解を深め、活動意欲・知識・技術を高めるとともに、新たな活動分野について考える機会を提供する。また、ボランティア活動のネットワークをつくる。

2　期日・会場

令和６年10月20日（日）　会場：山形県青年の家

3　参加対象

中学生以上のボランティア活動に興味・関心がある方　定員30名程度

4　日程・内容

９:30　開会行事
９:40　アイスブレイキングで仲良くなろう
　　講師：研修主査　土橋 明晃
10:10　ボランティア活動について理解を深めよう
　　講師：研修主査　石井　貴之
10: 50　講義「命をつなぐボランティア『献血』について学ぼう」
　　講師：山形県赤十字血液センター
　　保科　美有　氏
12:00　昼食
13:00　ボランティア実践活動「広報グッズを作ってあなたの優しさを身近な人に届けよう」
　　講師：山形県赤十字血液センター
　　保科　美有　氏
15:00　振り返り・全体共有
15:15　アンケート入力・閉会行事

5　参加者

参加者総数34名
（中学生１名・高校生28名・大学生等４名・社会人１名）

6　成果と課題

⑴　成果
①当初の日程（９月29日）を変更したことでより多くの高校生が参加できるようになり、結果として定員を超える参加者数となった。
②ボランティア全般および献血に関する「知識」や「技術」を学ぶだけにとどまらず、「献血を促すはがき作り」の広報ボランティアをおこなうことで、参加者にボランティア活動をおこなった際の充実感や達成感を感じてもらうことができた。
③全国（県内）的に若い世代の献血者数が減少している現状と献血の必要性を参加者に知ってもらうことができ、セミナー後のアンケートでは多くの参加者から『献血に行きたくなった』との感想をいただいた。

⑵　課題
①中学生の参加者が少なかった。青年の家のHP、インスタグラム、Xでの公開だけでなく中学校へのチラシ・開催要項の配布も考えていく必要がある。（高校はメールで送信し、校内掲示および生徒への呼びかけをお願いしているという現状）

（４）青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」運営

１　ねらい

⑴　YYボランティアサークルとしてこれまで継承されてきた機能を大切にしながらも新たな取り組みを実践し、現代に相応しいYYボランティアの在り方を模索しながらサークルとしてのロールモデルづくりを行う。

⑵　青少年の社会貢献への意欲や自己成長への希望に応える、継続性のある多様な活動や交流機会を提供し、人と人とのつながりに学ぶ青少年の拠点施設としての役割を果たす。本所研修課職員の青少年育成に係る専門的知識・技術や本所が有する人的ネットワークを活用したボランティア活動を実現する。

⑶　ボランティアサークルの継続的支援を通して､｢プレイヤー」として得たボランティア指導に係る情報や知見を、本所の研修事業の質の向上に活用する。

２　募集期間・対象

通年・高校生、大学・短大・専門学校生等
（天童市エリアでの活動に参加できる方）

３　メンバー（Ｒ７／２／15現在）

代　表　山口　玲美（天童高校３年）
副代表　鈴木　愛子（山形東高校３年）
会　計　馬場　琳花（天童高校３年）
【社会人ファシリテーター｢nicoぷらAd｣（６名）】
髙橋宏治、野口翔太、佐藤友佳、新田ゆい
佐々木真、荒木美咲
【学生ファシリテーター「nicoぷらAd」（５名）】
菊池柚香（羽陽学園短大）、渡辺紗矢（山形厚生看護学校）、平田寧々（山形県立保健医療大学）、伊藤凜乃（宮城教育大学）、日向杏帆（新潟大学）
【高校生メンバー（37名）】
鈴木愛子（山形東高）、安達和樺（山形西高）、齋藤綾乃、大沢杏寿、酒巻由水香（山形北高）･佐藤奏・角本れえな（寒河江高）、山口玲美・馬場琳花（天童高校）、大石璃虹・早坂美光・渡辺果歩・木村万葉・天野愛唯・佐藤凪紗・濱田明日菜・井上愛結・狩野明・多田美結・阿部芽依・結城夏音・近藤美音・佐藤京花・菊地祐芽（山辺高）､斎藤渉･中村優希（上山明新館高）､土橋晃生（東桜学館高）下山ひなの・渡部晴斗（日大山形高）、赤木天舞・山内珠愛・齋藤舞美（東海大山形高）、木村陽來・中林恋希・砂田雪乃・荒井奈々（惺山高）、落合拳右（創学館高）
【中学生メンバー（10名）】
天野花菜（山形二中）、工藤葵（山形五中）、荒木咲良（山形九中）、小林紗弥（高楯中）、折原颯雅（天童一中）、須藤謙心・落合雄馬・小座間暘花（天童二中）、木村颯大（陵西中）、奥山ひなた（酒田二中）、後藤悠珠（大富中）

４　名称由来、活動方針等

令和４年度「研修のあゆみ」に記載

５　おもな活動（４チーム）

⑴　チームｎ（小児がん支援）
「山形Make Lemonadeプロジェクト」
県内各地でＹボラサークル、学校、団体等多くの方々のご協力を得ながら小児がん支援活動を実践した。結果、1,988,419円の支援金が集まり、令和７年２月13日に山形大学医学部小児科学講座へ寄付した。

⑵　チームｉ（グモ天・地域づくり）
「にじっこプロジェクト」
昨年度に引き続きグモ天祭の運営を担当したほか､｢もちこ」の販売を行った（10月に大坂屋さん閉店に伴い終了）。また､フルッティアさんとメンバーが話し合いを重ねレモンのキャラクター「レモネンちゃん」が誕生し、オリジナルレモネードの販売も行っていただいている。グリーンモール天童商店街以外にも天童青年会議所、天童商工会議所等と協働の場面も多くなり、天童市の商工観光課や生涯学習課との関りも創出できている。

(3) チームｃ（福祉）
「ふだんのくらしをしあわせにプロジェクト」
難治性の病気の子どもたちのいちご狩り体験や手話イベント、車いす体験イベントなどでボランティア活動を実践した。

(4) チームｏ（モンテ・防災）
「有り、触れた、未来プロジェクト」
モンテディオ山形ホームゲームのSDGsブース、ユニバーサルスポーツ体験コーナーのボランティアスタッフとして活動した。また、映画「有り、触れた、未来」自主上映会のアンバサダー、スタッフとして活動した。

(5) その他様々なボランティア活動に参加
災害ボランティア、さくらんぼマラソン、Yボラフェスタ、スポGOMI、MYボラセミナー、クリスマス会など、メンバーからの要請や個人参加も含めて活動の機会が多かった。

(6) 助成金等
①荘内銀行ふるさと創造基金（20万円）
②㈱さのや（３万円）
③グリーンモール天童商店街（２万円）
④山新放送愛の事業団（タブレット一式）
(7) 表彰
①輝く県民活躍大賞（ジュニア･ユース部門）受賞

６　成果

結成３年が経過し、ますます多くのメンバーが参加し、非常に活発な活動を行うことができた。①ファシリテーターによる企画運営の機会増加②他サークルや学校・地域との協働の実践③天童市内の団体等との協働機会大幅増加、以上３点は特筆すべき成果である。何より､｢輝く県民活躍大賞」の受賞は本サークルにとって大きな喜びであった。２年続けて「山新放送愛の鳩福祉助成」をいただけたことについても、今後の活動の糧にしていきたい。

７　課題

(1) 小児がん支援レモネードスタンドについては、青少年ボランティア活動活性化に対しての貢献度は非常に高いが、青年の家の業務の域を超えるものがある。次年度以降「手放すもの」を確認し、業務の適正化を検討すべきである。
(2) 昨年度に増して活動の活発化に伴い、多方面からボランティア活動の依頼（特にレモネードスタンド）や講演依頼も増えている。今年度は社会人・学生ファシリテーターによる指導・運営の機会も設けたが、さらにその頻度を高めるべきである。
(3) 持続可能なＹボラサークルにするため、今後の活動のあり方を青年の家職員とファシリテーターが共通認識を図りながら話し合いを進める必要性がある。

レモネードの輪 さらに

プロジェクト3年目 小児がん患者を支援

天童

「山形メークレモネードプロジェクト」の3年目の活動をスタートさせた「nico こえ」のメンバーら ＝天童市・県青年の家

県内の中高生らが中心となり、レモネードの販売収益を小児がん患者の支援につなげる「山形メークレモネードプロジェクト」のキックオフミーティングが10日、天童市の県青年の家で開かれ、3年目の活動をスタートさせた。

プロジェクトは、県青年の家がコーディネートするボランティアサークル「nico こえ」が2021年度に立ち上げた。同サークルや、趣旨に賛同する県内の団体・個人が学校祭や地域の催しなどでレモネードを販売。活動1年目は103万円、2年目は198万円の支援金を集め、山形大医学部に寄付した。

この日、高校生リーダーの安達和樺さん(17)＝山形西高2年＝がプロジェクトの概要を説明。プロジェクトリーダーで、自身も小学3年の頃に小児がんを患った平田寧々さん(19)＝県立保健医療大1年＝が「認知度は徐々に高まっていて、励ましの声も頂いている。活動の輪をさらに広げることができるよう、3年目の活動も頑張りたい」とあいさつした。（落合慶）

2025. 3. 11　山形新聞

2024年（令和6年）5月28日（火曜日）　地域　山形

フルーツ店が独自商品

小児がん支援レモネード 天童で販売

グモ天祭でオリジナルレモネードを販売する長瀬昌行社長（左）と「nico こえ」レモネードスタンドプロジェクトリーダーの平田寧々さん ＝天童市

天童市の果物販売・ながせ（長瀬昌行社長）が運営するフルーツ&スイーツ専門店「フルッティア」が、オリジナルレモネードの販売を始めた。レモネードを売って小児がん治療への支援金を集める「レモネードスタンド」に取り組む、県青年の家（同市）のボランティアサークル「nico こえ」（山口玲美代表）を応援する狙いで、売り上げの一部を寄付する。

フルッティアは、同市のレモンを使った同店オリジナルのレモネードを「nico こえ」メンバーと一緒に販売し、好評を得たの5月開催）で昨年から、生が商品化のきっかけとなった。

長瀬社長は「フルッティアには子どもたちに果物のおいしさを届けたい」という理念があり、『nico こえ』は小児がん支援という目的があった。子どもたちを思う部分で合致したのがそもそもの始まり」と振り返る。

国内でのレモネードスタンド活動では既製品を用いるのが一般的だが、オリジナルレモネードは手作りと無添加にこだわった。生レモンを絞った果汁に、同店の看板商品でもある特製フルーツポンチで使っている秘伝のシロップを加え、すっきりした味わいに仕上げた。

氷を入れた冷たいレモネードは1杯（210㍉㍑入り）324円、冬季限定のホットレモネードは1杯（同）378円で、うち各50円を「nico こえ」に贈る。

両者のコラボからは「レモネンちゃん」という新キャラクターも生まれ、今後さまざまな場面で活用することにしている。（落合慶）

売り上げ一部、ボランティア団体へ

2024. 5. 28　山形新聞

県内中高生 100万円寄付

小児がん支援、山形大医学部へ

県内中高生らが中心となり、レモネードの販売収益を活用して小児がん患者への支援を呼びかけるグループ「山形メークレモネードプロジェクト」は13日、がん大医学部に100万円を寄付した。付属病院に通う患者や、治療に付き添う父母の負担を軽減しようと、待ち時間に食べてもらう食品、おもちゃなど計約100万円分も合わせて贈った。

プロジェクトは、県青年の家（天童市）を拠点とするボランティアサークル「nico こえ」が展開し2年目となる。本年度は同サークルをはじめ、活動の趣旨に賛同する県内各地の計100団体・個人が学校祭や地域の催しなどでレモネード販売を繰り広げた。

22団体から寄せられた善意を含め、集まった支援金は計198万8419円。このうち半分ほどを活用し、天童市内の事業所・団体の協力を得て、レトルト食品やパックご飯、病院内のコーヒーショップで使えるチケット、病棟のプレイルームに置くままごとのおもちゃなどを購入した。

山形市の同大飯田キャンパスで贈呈式が行われ、プロジェクトリーダーで、自身も小学3年の頃に小児がんを患った平田寧々さん(19)＝県立保健医療大1年＝が医学部の三井哲夫教授（小児科学講座）に目録を手渡した。平田さんは「病気と闘う子どもと家族が、少しでも楽になればいい。来年度も活動を継続し、支援の輪を広げたい」と話した。（吉村瑛人）

小児がん患者のための支援金を贈った平田寧々さん（中央）ら「山形メークレモネードプロジェクト」のメンバー ＝山形市

2025. 2. 14　山形新聞

（５）未来を守る青少年防災フォーラム2024

１　ねらい

東日本大震災から13年が経過した2024年１月、能登半島地震が発生した。地震だけではなく、近年では全国各地で豪雨災害が発生するなど、自然災害の激甚化が進んでおり、ここ山形県でも例外ではない。日本全国において災害の発生が懸念される災害大国日本において、次世代を担う若者の防災意識と社会参画意識の育成が急務である。地域社会の未来の担い手である青少年に、対話と実践を通し「助けられる」から「助ける」への意識の転換を図る。

２　期日・会場

令和６年９月15日（日）・山形県青年の家

３　参加対象

県内の中高生、大学生、ボランティアサークル指導者、福祉関係者、地域防災関係者など

４　日　程

９:00　受付開始
９:30　オープニング
９:40　「災間を生きる君たちへ」
　　～希望は絶望のど真ん中に生まれる～」
　　（昼食休憩）
14:30　「心のレジリエンス」
　　～コロナ禍で失ったもの、見つけたもの～
15:30　若者からのメッセージ
　　「災間を生きる者として」
　　～命と向き合い、命をつなぐ防災～
16:00　振り返り、アンケート入力、クロージング

５　講　師

齋藤　幸男　氏
（東北大学非常勤講師・元石巻西高等学校長）

６　参加者

参加者総数70名
（中学生２名、高校生57名、成人11名）

７　成果・課題

⑴　成果
①これからの地域の担い手である若者に、防災・減災についての当事者意識を持たせ、実際の避難所運営の課題や対策を考え、共有することができた。
②講師のエネルギッシュな指導により、参加者の満足度が非常に高い研修会となった。
③日本赤十字社山形県支部との繋がりにより、赤十字のリーダーシップ研修会の中に本防災フォーラムを組み込んでいただいたことにより、定員を大幅に超える参加者を得ることができた。

⑵　課題
①参加中学校数・高校数を増やしたい。そのための募集の仕方を工夫する必要がある。また、中学校への事業周知が難しいため、対応策を検討していく。

（未来を守る青少年防災フォーラム2024関連事業）

映画『有り、触れた、未来』自主上映会

1　ねらい

本所主催「未来を守る青少年防災フォーラム」講師 齋藤幸男氏の著書「生かされて生きる～震災を語り継ぐ～」を原案とする本映画を上映し、「防災フォーラム」事業と関連させ、参加者のより一層の地域防災の意識を高める。また、コロナ禍を経て、先行きの見通せない不安や閉塞感が漂う現代の日本社会において、次世代を担っていく青少年の命の尊さを実感する機会、命と向き合う機会を提供する。

2　期日・会場

令和６年10月６日（日）
山形県生涯学習センター「遊学館」ホール

3　参加対象

中高生や一般県民、どなたでも

4　日　程

11:30　開場・受付開始
12:30　映画『有り、触れた、未来』上映
14:50　アフタートーク
　　映画原案著者　齋藤　幸男　氏
　　映画出演兼プロデューサー
　　舞木ひと美　氏
15:30　クロージング

5　参加者

鑑賞者総数132名（小中高生43名、成人89名）

6　成果・課題

⑴　成果

①来場者に記入していただいた事後アンケート等を見ると大変好評であり、「命の尊さを実感する機会、命と向き合う機会」を提供することができた。

②映画上映後にアフタートークを組み合わせたことにより、当映画が作成された背景、震災との関係性やそれにまつわる実話、制作秘話などを聞くことができ、より一層来場者の琴線に触れた様子が伺えた。

⑵　課題

①幅広い媒体での事業周知・募集を試みた。特に中高生の参観を求め、学校訪問等を通して事業周知活動を精力的に行ったが、結果的にあまり中高生の関心を引くことができず、主催者の期待どおりにはいかなかった。

7　鑑賞者アンケートより（一部）

・大変素晴らしい上映会とトークショーでした。震災だけではなく、コロナ禍や、生きる事を身近なテーマになっており、難しいテーマで考えさせられる内容でした。
・心震えさせられるとても素敵な映画でした。震災からの復興や未来に向かう希望を与えられました。
・いろいろな事を考えさせられる映画。中盤からは涙が止まらず、今思い出しても涙がこみあげてきます。トークショーもとても楽しく、本当に有意義な時間を過ごせました。
・素敵な映画でした。悲しい事があっても生きているってすごいことだな、と感じました。

（6）地域をつくるリーダーセミナー

1　ねらい

高校生が地域づくり活動に目を向け、地域の良さを再認識し、地域の魅力を発信していけるような次世代のリーダーに期待される資質能力を育成するとともに、県内各高校生同士の相互交流及びネットワーク形成を図る。

2　期日・会場

⑴　【庄内会場】令和６年12月８日（日）
　　鶴岡市勤労者会館
⑵　【内陸会場】令和６年12月15日（日）
　　山形県青年の家

3　参加対象

県内各高等学校等の生徒会役員ならびに地域づくりに関心を持つ生徒（各校３名程度）

4　日程・内容

10:00　開講式
10:10　青年リーダーからのメッセージ
【庄内会場】「魅力いっぱい宝の宝庫　山形を世界に発信！山形と世界をつなぐ」
講師　山新観光株式会社
　　リッツ・アレクサンダー　氏
【内陸会場】「誇るべき故郷：世界から見た日本の地方」
講師　山新観光株式会社
　　ディーン・セーラ　氏
11:20　フィールドワーク
【庄内会場】「山王商店街・まちなかキネマの案内を受け、地域の課題をイメージする」
講師　鶴岡山王商店街振興組合
　　理事長　阿部　　等　氏
【内陸会場】グリーンモール天童商店街の案内を受け、地域の課題をイメージする」
講師　グリーンモール天童商店街
　　会長　髙橋　政司　氏
12:30　昼食・休憩
13:00　ワークショップ
「次はあなたが青年リーダー！地域の課題に何ができる!?学校の枠を超えたアイディア会議を開こう」
講師　尚絅学院大学人文社会学群人文社会学類
　　教授　松田 道雄　氏
15:15　振り返り（アンケート記入）
15:30　閉講式

5　参加者

【庄内会場】　参加総数 28名
（高校生25名、社会人３名　参加校数５校）
【内陸会場】　参加総数 47名
（高校生39名、大学生等２名　社会人６名　参加校数15校）

6　成果と課題

⑴　成果
①青年リーダーからのメッセージを外国人にお願いし､外から見た「山形の魅力」を語ってもらったことで参加者たちは地元住民が見過ごしがちな魅力を再認識し、今後の地域活動への意識を高める機会となった。また、多角的な視点の獲得にもつながった。
②商店街でのフィールドワークを通して、地域の課題を目の当たりにし、肌で感じてもらったことで、午後のアイディア会議において活発な意見が交わされることとなった。
③初対面の人とのフィールドワークやグループワークを通して、コミュニケーション能力や協調性を高めることができた｡特に「等話」について学び、実践できたことは、今後の活動に役立つ貴重な経験となった。また、他校の生徒と交流することで、新たな視点や意見に触れ、刺激を受けることができた。
⑵　課題
①各プログラムの時間配分、フィールドワークの内容、そしてセミナー後のフォローアップ体制を強化することで、更なる効果が期待できる。

（7）持続可能な社会づくり体験1「SDGｓ×スポGOMI」

1　ねらい

⑴　環境美化活動を通し､「地域の環境と文化の継承」に自立と共助の精神を持って行動する青少年を育成する。

⑵　持続可能な社会づくりへの参画を目指し、コミュニケーション力・他者と協力する力・繋がりを尊重する態度・進んで参加する態度を育成する。

2　期日・会場

令和６年６月16日（日）

会場：山形県青年の家及びその周辺（舞鶴山を含む）

3　参加対象

中学生・高校生および一般県民　定員30名程度

4　日程・内容

9：30　開会行事

9：40　講座　「海の豊かさを守るために私達ができること」

講師　美しい山形・最上川フォーラム　安部　明子　氏

10:20　舞鶴山を含む青年の家周辺でスポGOMI体験

11:20　競技終了後、チームごとクイズの採点･計量

11:40　閉会行事

5　参加者

参加者総数28名＋運営ボランティア７名（中学生２名･高校生28名･大学生等２名･社会人３名）

6　成果と課題

⑴　成果

①応募者数が42名となり、スポーツGOMI拾いへの感心が高いことがうかがえた。今後も青少年ボランティア推進に向けて、体験を取り入れた講座が必要であると感じた。

②今年は山形工業高校の生徒によるロボット実演を含めた講話を入れ、若者が取組んでいる環境美化に関するSDGsの実践を学ぶことで、同世代の参加者に良い刺激を与える機会となった。アンケート結果も大変好評であった。

③中学生、高校生だけでなく、スタッフを含む成人と交流を持つことで学校では体験できない地域貢献活動になった。

④今年も青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」に運営スタッフとして入ってもらうことで、ボランティア活動への参加だけにとどまらず企画する側（裏方）の仕事も体験することができ、未来の参画者の育成にもつながった。

⑵　課題

①当日の欠席者が７名もおり、参加費（保険料）の徴収に期間を要した。欠席の場合は必ず本人から青年の家に連絡を入れるよう所属校の教員へ徹底をお願いしていたが、内２名は欠席の連絡がなかった。

持続可能な社会づくり体験２「SDGs×地域文化」
～さあ行こう、山形！ヤッショーマカショ！～

１　ねらい

⑴　山形の青少年に「山形の良さ」を再認識してもらい、郷土愛を醸成する。

⑵　「モンテディオ山形」と「花笠踊り」２つの山形文化を学び楽しむとともに様々な山形文化を継承するきっかけをつくる。

２　期日・会場

令和７年１月26日（日）・山形県青年の家

３　参加対象

中学生以上の方どなたででも（30名程度）

４　日　程

9:30　オープニング
9:45　アイスブレイキング
9:50　講演　「山形一丸！山形文化としてのモンテディオ山形」
　　講師：岡﨑　建哉　氏
　　（モンテディオ山形）
　　髙﨑　翔平　氏
　　（モンテディオ山形）
11:10　集合写真
11:20　講演・体験活動１
　　「花笠の歴史と踊りのポイント」
　　講師：柴﨑　玲子　氏（雪華）
　　斉藤　栄子　氏（雪華）
12:10　昼食・休憩
13:00　体験活動２「発祥地尾花沢の笠まわし」
14:40　集合写真
14:50　持続可能な山形を考える
　　担当：研修主査　石井　貴之
15:10　振り返り、アンケート入力
15:25　クロージング

５　参加者（23名）

（高校生16名、大学生４名、社会人３名）

６　成果・課題

⑴　成果

モンテディオ山形の岡﨑さん、髙﨑さんからプロサッカークラブチームとしての目的と地域に根差した活動やSDGsの取り組みなどを紹介していただき、サッカーだけではない価値の創出を学ぶことができた。参加者は「私たちのチーム」という意識も芽生え、山形の自慢の１つという感想も得られた。

花笠踊りについては、その歴史を学ぶとともに上町流と寺内流の２流派を習得することができ、山形の伝統文化を楽しく体験できた。また、ぜひチームを組んで花笠まつりに出たいという声も上がるほど充実したものとなった。

⑵　課題

この事業が年度最後の事業であったが、やはりどの事業についても参加者募集について、広報の仕方を研究しなければならない。届けたい人に届く、欲しい人が情報を得られる方法を獲得することが急務である。

（８）若者自立支援体験活動１「スポーツでわいわい」

１　ねらい

青少年の「自立」を支援するためにスポーツを楽しみながら人と交流できる場を提供する。また、あたたかい触れ合いの中で活動することで、心身のリフレッシュを図り、社会参加を促す。

２　期日・会場

令和６年６月５日（水）・山形県青年の家

３　参加対象

若者自立支援関係機関、民間支援団体に関わる青少年（定員30名程度）

４　日　程

13:00 ～ 13:30　受付
13:30 ～ 13:35　開会行事
13:35 ～ 13:55　アイスブレイキング
14:00 ～ 15:30　スポーツ（ディスクゴルフ）
15:30 ～ 15:45　写真撮影・閉会行事

５　内　容

ディスクゴルフ

６　講　師

中嶋　乃林子　氏
（山形フライングディスク協会事務局長）

７　参加者

蔵王いこいの里	10名
天童市アウタースクール	５名
若者の居場所こころいき	２名
発達支援研究センター	２名
計	19名

８　成果・課題

(1)　成果

①アンケートでは「大変楽しかった」「楽しかった」が100％、であったことから、概ね満足していただけたようである。「少し心がほぐれた様な気がしました」や他施設の方と「仲良くなれて良かった」という感想をいただけたので、研修の目的をしっかり果たせたように思う。

②それぞれの施設でも作成し手軽に楽しんでいただけるよう新聞を利用してフライングディスクを作成した。大変好評であった。

③天童市アウタースクールおよび南陽市の「若者の居場所こころいき」の児童・生徒にも参加してもらったが、大変楽しく参加してくれた。

(2)　課題

①同施設内での編成を望む団体と幅ひろい交流を望む施設があるため、班（チーム）編成の難しさを感じた。どうしても、前者の考え方での編成となってしまう。

②昨年実施した「スラックライン」をもう１度したいという意見が多かった。複数年同種目開催や年内複数回開催なども検討していきたい

若者自立支援体験活動２「アートでわいわい」

１　ねらい

青少年の「ひきこもり」を支援するためにアート作品を作製しながら人と交流できる場を提供する。また、あたたかい触れ合いの中で活動することで、心身のリフレッシュを図り、社会参加を促す。

２　期日・会場

令和６年10月16日（水）・山形県青年の家

３　参加対象

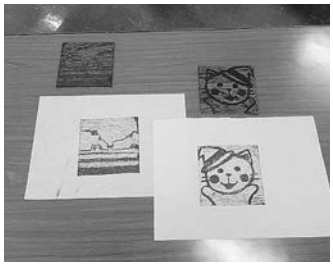
支援関係機関、民間支援団体に来所している青少年および指導者

４　日　程

13:00 ～　受付
13:30 ～　開会行事
13:40 ～　アイスブレイキング
　　講師：研修主査　土橋　明晃
14:00 ～　アート活動（版画）
　　講師：城山　萌々　氏
　　早坂　美紅　氏
　　（天童アートロードプロジェクト）
15:30 ～　アンケート記入・閉会行事
　　写真撮影

５　参加者

蔵王いこいの里	12名
から・ころセンター	５名
若者の居場所こころいき	２名
発達支援研究センター	２名
東北芸術工科大学学生	２名
計	23名



６　成果・課題

(1)　成果

①アンケートではアイスブレイキング、版画ともに「大変楽しかった」「楽しかった」が100%、であったことから、概ね満足していただけたようだ。『蔵王いこいの里』では施設の行事として常に参加して下さっている。

②44歳から、10歳の小学生まで幅広い年齢層であったが、講師の先生や各事業所の指導者および社会教育実習生からのサポートもあり、全員が作品をつくり上げることができた。

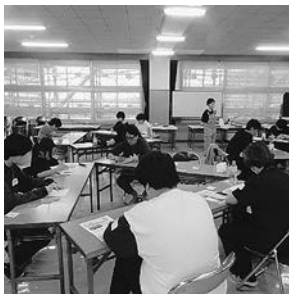
③版を作る作業、刷る作業など、苦労する姿もあったが、参加者皆さんが意欲的に活動されていた。特に、最初は会場に入らなかった参加者が最後には笑顔で作品づくりに励む姿も見られた。

④今回は米沢市の「から・ころセンター」や南陽市の「若者の居場所こころいき」など遠方からも参加していただき、終始大変楽しく参加してくれていた。

(2)　課題

①作業スピードに差異があるため、早く完成した方向けの取り組みも準備すべきと考える。

②今後午前午後の１日開催について検討すべきであると考えていたが、アンケートの活動時間については「ちょうどいい」という意見が81%となっており、多角的に事業について検証していく必要性がある。



（９）家庭教育支援事業１「スポーツ de SDGs」

１　ねらい

・車いすバスケットボールの体験を通して、障がいを持つ人への理解を深め、インクルーシブな社会の実現に向けて親子で学びあう。
・軽スポーツやユニバーサルスポーツの体験を通して親子の絆を深め、育ちあう。

２　期日・会場

令和６年７月７日（日）・山形県青年の家

３　参加対象

小学生（１～６年生）の児童とその保護者

４　日程・内容

10:00　　開会行事
10:10 ～ 12:00　親子で車いすバスケットボール体験
12:00 ～ 13:00　昼食休憩
13:15 ～ 15:00　親子でスラックライン体験
15:10 ～ 15:30　閉会行事とふりかえり

５　講師

車いすバスケットボールチーム
山形I.B.Brothers
井上　　祐　氏
（山形県立山形西高等学校教諭・（一社）日本スラックライン連盟公認Ｂ級インストラクター）
小池　智也　氏
（鶴岡スラックラインＣ級インストラクター）

６　参加者

18名（小学生10名、保護者８名）

７　成果と課題

(1)　成果

車いすバスケットボール体験については、日常的に車いすで生活している障がいを抱えている児童と障がいのない児童が同じルールのもと同じスポーツを楽しみ、保護者も含めて交流を深める貴重な機会となった。

スラックライン体験については、親が子を、子が親をサポートするなど、親子間のコミュニケーションを深める良い機会となり、参加者の笑顔が溢れる講座とすることができた。

(2)　課題

１日を通しての活動であったため、特に低学年の参加児童にとっては体力的に難しさがあった。また、親子でのスポーツ体験という共通性はあるものの午前と午後のプログラムでは目的が多少異なることから、別々の事業とするなどの工夫が必要である。

家庭教育支援事業２「青年の家 de 寺子屋」

１　ねらい

・夏休み中の宿題サポート等を通して、児童の学習意欲の向上と主体的な学びを促進し、家庭での学習習慣の定着をサポートする。
・高校生や大学生など異なる世代の人々と交流することで、コミュニケーション力や協調性を養い、児童の健やかな成長をサポートする。

２　期日・会場

令和６年８月８日(木)・９日(金)山形県青年の家

３　参加対象

小学生（１～６年生）の児童（定員　各日15名）

４　日　程

９:00　受付
９:30　開校式･アイスブレイクで仲良くなろう！
10:30　宿題タイム１
11:20　宿題タイム２
12:00　昼食・休憩・レクリエーション
13:20　宿題タイム３
14:10　お楽しみタイム
15:10　集合写真撮影・閉校式・振り返り

５　参加者（２日間計）

参加小学生27名
学生ボランティア15名（高校生・大学生等）

６　成果・課題

(1)　成果
①若干定員には満たなかったが、多くの児童の参加を得ることができた。中には保護者の帰省に合わせて県外から参加してくれた児童もいた。
②「また参加したい」､「ぜひ継続してほしい」との感想が多く、児童、保護者ともに好評を得ることができた。
③学生ボランティアの活躍が大きかった。一人ひとりが児童と触れ合う喜びも難しさも感じ、学生にとっても非常に良い経験となった。

(2)　課題
①参加児童１名につきボランティア１名を目標にして学生ボランティアの確保に努めたが、当日体調不良で欠席した者もあり、中には児童２名を担当してもらわなければならない場面もあった。
②学生ボランティアの募集についてさらなる工夫が必要である。

家庭教育支援事業３「アート de SDGs」

１　ねらい

児童とその保護者を対象に、芸術活動を通して親子で共に学び、体験を通し育ち合う。

２　期日・会場

令和６年11月17日（日）
会場：山形県青年の家

３　参加対象

小学生（１～６年生）とその保護者
定員７組程度（最大21名）

４　日程・内容

13:00　開会行事
13:05　アイスブレイキング
　　講師　東北芸術工科大学の学生
13:30　アート活動
　　「キラキラ輝く ミラーツリーづくり」
　　講師　石沢　惠理　氏
　　（東北芸術工科大学専任講師、兼天童アートロードプロジェクト実行委員）
15:40　アンケート入力・閉会行事

５　参加者

参加者総数８組17名＋見学者３名
（幼児２名・小学生10名・保護者８名）

６　成果と課題

⑴　成果

①３年連続で参加してくれた親子もいた。アンケート結果では「親子で同じことに集中して取り組むことは考えてみるとあまりないような気がするので、よい機会になりました。」との感想が寄せられた。じっくりと親子一緒にアート活動を行うことで親子の絆も深まり、満足して帰っていく参加者の姿が見受けられた。

②本事業の周知方法として、ここ数年「青年の家のSNSでの情報発信」や「児童遊戯施設へのポスター・チラシ設置」に力を入れてきた。今年は３組の親子が「上記の方法で本事業のことを初めて知り、参加に至った」とアンケートでご回答いただいた。

⑵　課題

①今回、終了時刻が予定より遅くなってしまった。アート活動では、出来栄えへのこだわりが個人で違うため、早く作業が終わる人もいれば、時間がいくらあっても足りない人がいることが分かった。進捗状況を把握し、講師と時間配分について確認する必要があった。

（10）Ｙボラフェスタ2024

１　ねらい

⑴　YYボランティアのサークル同士の親睦を図りながら活動を盛り上げる
⑵　YYボランティアの活動を広く県民に知ってもらう
⑶　YYボランティアサークルメンバーの自己肯定感を養う
⑷　山形が誇るプロスポーツチームとの協働により郷土愛を醸成する
⑸　YYボランティアサークルと学校との協働を実践する

２　期日・会場

令和６年６月９日（日）
山形県総合運動公園（モンテディオ山形試合会場）

３　参加対象

⑴　YYボランティアサークルメンバー
⑵　県内各高校のボランティア部、JRC部等のメンバー
⑶　YYボランティアに興味がある方

４　日　程

９:00　集合・準備
９:30　サークルキックオフミーティング
10:00　イベント開始
13:50　イベント終了
　　イベント後試合観戦（自由参加）

５　内　容

⑴　ステージでYYボランティアの紹介
⑵　各ブースで活動、体験活動運営
　①Ｙボラウォークラリー
　②バルーンアート
　③おりがみ
　④レモネードスタンド
　⑤マグネットフィッシング
　⑥スライムづくり
　⑦ミニメガホンづくり
　⑧新聞フライングディスク
　⑨モルック
　⑩キックターゲット

６　参加者（187名）

・中学生23名・高校生135名
・大学生12名・社会人17名

７　予算

５万円（青少年地域学習活動助成金）

８　成果・課題

⑴　成果
　①イベント会場の一部を借り切ってイベントを行う、しかも187名という非常に多くの参加者数（スタッフ含む）という挑戦ではあったが、アンケート結果を見ると「とてもよかった」が78.6％、「よかった」が21.4％と、この２つで100％であったため、充実した事業となった。
　②10のブースをつくり、各ブースに大人（社会人および学生）を２名以上配置し責任を持っていただくことでスムーズな運営を行うことができた。
　③渡邉百音アナウンサー（さくらんぼテレビ）のご協力のもと、YYボランティアを紹介するステージを多くの観客に囲まれながら行えた。
　④モンテディオ山形側からの評価も非常に高く、再開催の要望を受けた。
⑵　課題
　①欠席者が多く、その対応に苦慮した。
　②LINEオープンチャットを活用して連絡事項を随時配信したが、チェックを怠る参加者も多く、その対応に苦慮した
　③時間的にタイトな上に参加者が多かったため、出欠の確認に曖昧さが見られた。
　④参加者の主観によって意見が分かれてしまうため、焦点をどこに絞るかを事前に決定しておく必要性を感じた。

3　令和６年度研修利用団体一覧

1　子ども会の研修

天童市子ども会育成会連合会	蔵増地区子ども会育成会連合会

2　幼稚園・保育園の研修

天　童　幼　稚　園	天童市立舞鶴保育園

3　小学校やスポーツ少年団等の研修

天童中部小ゴールデンイーグルス	天童市バドミントンスポーツ少年団	天童ミラクルV．CLUBスポーツ少年団
山形チアリーディングチームGLOOVERS	け　や　き　J　V　C	山形ジュニアソフトテニススポーツ少年団
ほなみスポーツ少年団女子バレーボール部	山形ＳＧベースボールクラブ	W　B　C
バスケットボールスクールハーツ	神町バドミントン愛好会	中島バレーボールクラブ
ダンスクラブ５年Ｂ組		

4　中学校の研修

(1)　学年宿泊研修

東北学院中学校

(2)　生徒会リーダー研修会

なし

(3)　部活動研修

天童三中女子バスケットボール部	庄内町立余目中学校合唱部	増田中学校ソフトボール部

(4)　その他

1st．Rev．BC	天Ｊソフトテニス	かしわ男子バスケットボールクラブ
ＴＧＢスポーツ少年団	T-third　BBC	T　3　B
天三バスケ保護者会	T　バ　ド	クラブ・バドミントン
サンデーシャトルズ	A　T　4	天　童　バ　ド
山形スマイルガールズ	山二中野球クラブ	S　P　T
金井ジュニアバスケットボールクラブ	金　井　B　C　O　B	白水バスケットボールスポーツ少年団
F　5　C	ジュニアバドミントンクラブ	高橋バドミントンクラブ
HOOP　is　LIFE	東　学　V　B　C	Lacrima　Jr
桜　香　会		

5　高等学校の研修

(1)　学年宿泊研修

新庄東高等学校	山形学院高等学校	山形県立山形養護学校高等部
東北学院高等学校		

(2)　生徒会リーダー研修会

なし

(3)　高校関係諸団体

山形県高文連書道専門部	山形県総合学科高等学校発表交流会

(4)　部活動関係

天童高校ダンス部	鶴岡東高校野球部	秋田県立雄物川高等学校男子バレーボール部

(5)　その他

なし

6　大学・短期大学の研修

(1)　学校関係

なし

(2)　サークル合宿等

山形大学競技舞踏部	東北大学ＳＦ・推理小説研究会	東北ジャグリング合宿

7　専修学校・各種学校の宿泊研修

(1)　学校関係

なし

(2)　サークル合宿等

なし

8　企業等の研修

(1)　新入社員研修

株式会社　山形ビルサービス

(2)　社員研修・会議

株式会社　山形ビルサービス

9　行政等の研修

生涯教育･学習振興課「東北大学社会教育主事講習」	生涯教育･学習振興課「教育事務所等社会教育主事等会議」	生涯教育･学習振興課「青少年教育施設協議会所長会議」

10　社会教育団体の研修

ボーイスカウト山形県連盟	家庭倫理の会　山形

11　サークル等の研修

大石バドミントン	チーム　ベトナム

12　ボランティア関係

村山教育事務所「MYボランティアスタートアップセミナー」	村山教育事務所「MYボランティアスキルアップセミナー」	村山教育事務所「MYボランティアサークル交流会」
ボランティアサークル「ｎｉｃｏこえ」	山形Ｍａｋｅ　Ｌｅｍｏｎａｄｅプロジェクト実行委員会	

13　その他

放課後等デイサービス事業所つぼみ	放課後等デイサービス　ハートテラス	蔵王かえでの会
親睦を深める会	立正大学同窓会山形県支部	国土交通労働組合東北地方協議会
東桜かるた練習会	不愉快な仲間たち	

4　令和６年度研修利用状況

(1)　主催・受入事業別利用状況

主催研修			受入研修			合計		
団体数	実人数	延人数	団体数	実人数	延人数	団体数	実人数	延人数
14	398	398	408	8,307	9,392	422	8,705	9,790

(2)　団体別利用状況

ア　成人・一般

区分	団体数	実人数
社会教育	294	286
企業関係	6	98
その他	76	181
計	376	565

イ　幼児・児童・生徒・学生

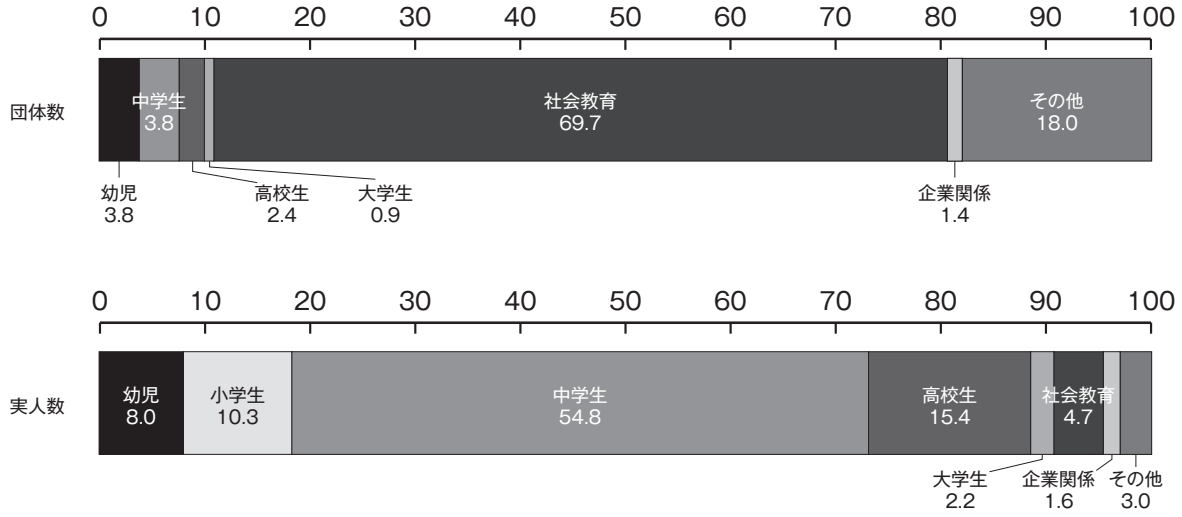
区分	団体数	実人数
幼児	16	490
小学生	0	631
中学生	16	3,352
高校生	10	944
大学生	4	134
計	46	5,551

ウ　指導者・引率者

実人数
2,589

(3)　利用状況の割合（団体・利用者）

区分	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	社会教育	企業関係	その他	計
団体数	16	0	16	10	4	294	6	76	422
%	3.8	0.0	3.8	2.4	0.9	69.7	1.4	18.0	100.0
実人数	490	631	3,352	944	134	286	98	181	6,116
%	8.0	10.3	54.8	15.4	2.2	4.7	1.6	3.0	100.0



(4) 宿泊数別利用状況

区　分	日帰り	1　泊	2　泊	3　泊	4泊以上	合　計
団体数	392	24	2	4	0	422
%	92.9	5.7	0.5	0.9	0.0	100.0
実人数	7,841	731	45	88	0	8,705
%	90.1	8.4	0.5	1.0	0.0	100.0

(5) 月別利用状況

月	研修日数	団体数	実人数	延人数	1日平均人数	利用率(%)
4	30	37	1,109	1,407	46.9	21.9%
5	31	39	810	926	29.9	14.0%
6	30	36	847	962	32.1	15.0%
7	31	39	647	712	23.0	10.7%
8	31	35	755	835	26.9	12.6%
9	27	40	1,020	1,058	39.2	18.3%
10	31	35	688	732	23.6	11.0%
11	27	29	586	607	22.5	10.5%
12	28	38	695	695	24.8	11.6%
1	27	32	478	478	17.7	8.3%
2	25	32	538	562	22.5	10.5%
3	30	30	532	816	27.2	12.7%
計	348	422	8,705	9,790	28.1	13.1%

(6) 年度別利用状況

年　度	研修団体数	研修実人数	研修延人数
昭和42年度～平成26年度	18,855	578,831	1,168,013
27	500	11,764	15,813
28	511	11,000	15,390
29	441	9,593	13,630
30	381	9,476	13,938
令和元年度	289	6,718	9,106
2	289	4,259	4,325
3	240	3,622	3,835
4	245	4,100	4,427
5	382	7,814	8,841
6	422	8,705	9,790
計	22,555	655,882	1,267,108

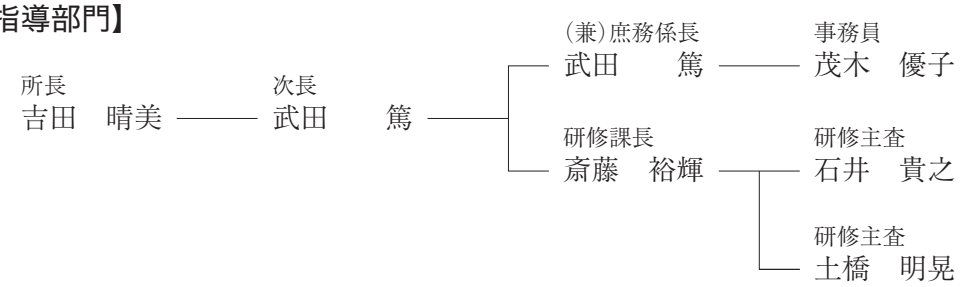
※数値は令和７年３月31日現在のもの

5　令和６年度研修利用実績一覧

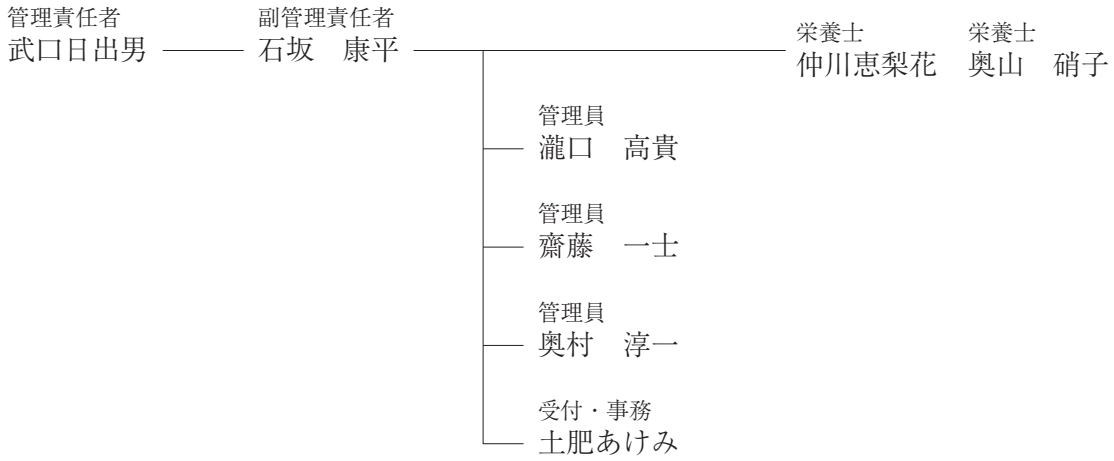
期間	利用者区分	幼児・児童・生徒・学生						成人・一般				指導者引率者	実利用者数		利用者総数		利用率	開所日数	研修日数
		幼　児	小学生	中学生	高校生	大学生	小　計	社会教育	企業関係	その他	小　計		計	累計	計	累計			
４月	人　数	0	135	293	385	0	813	26	7	0	33	263	1,109	1,109	1,407	1,407	21.9%	30	30
	団　体	0	0	6	2	0	8	18	1	10	29		37	37					
５月	人　数	35	81	362	6	4	488	67	0	22	89	233	810	1,919	926	2,333	14.0%	31	31
	団　体	1	0	0	0	0	1	32	0	6	38		39	76					
６月	人　数	0	9	346	153	8	516	49	31	3	83	248	847	2,766	962	3,295	15.0%	30	30
	団　体	0	0	4	2	0	6	27	1	2	30		36	112					
７月	人　数	0	67	301	6	0	374	51	8	8	67	206	647	3,413	712	4,007	10.7%	31	31
	団　体	0	0	0	0	0	0	34	1	4	39		39	151					
８月	人　数	73	49	281	31	44	478	0	0	0	0	277	755	4,168	835	4,842	12.6%	31	31
	団　体	3	0	2	0	1	6	29	0	0	29		35	186					
９月	人　数	327	32	254	113	11	737	0	15	9	24	259	1,020	5,188	1,058	5,900	18.3%	27	27
	団　体	11	0	1	1	1	14	16	1	9	26		40	226					
10月	人　数	1	50	232	87	7	377	15	0	52	67	244	688	5,876	732	6,632	11.0%	31	31
	団　体	0	0	0	3	0	3	22	0	10	32		35	261					
11月	人　数	47	16	228	8	5	304	30	32	81	143	139	586	6,462	607	7,239	10.5%	27	27
	団　体	1	0	2	0	0	3	17	1	8	26		29	290					
12月	人　数	7	47	324	53	4	435	3	5	6	14	246	695	7,157	695	7,934	11.6%	28	28
	団　体	0	0	1	1	0	2	29	1	6	36		38	328					
１月	人　数	0	36	230	16	4	286	25	0	0	25	167	478	7,635	478	8,412	8.3%	27	27
	団　体	0	0	0	0	0	0	29	0	3	32		32	360					
２月	人　数	0	61	288	8	2	359	20	0	0	20	159	538	8,173	562	8,974	10.5%	25	25
	団　体	0	0	0	0	0	0	22	0	10	32		32	392					
３月	人　数	0	48	213	78	45	384	0	0	0	0	148	532	8,705	816	9,790	12.7%	30	30
	団　体	0	0	0	1	2	3	19	0	8	27		30	422					
合計	人数計	490	631	3,352	944	134	5,551	286	98	181	565	2,589	8,705	8,705	9,790	9,790	20.4%	348	348
	団体計	16	0	16	10	4	46	294	6	76	376		422	422					

6　組織および職員構成

【指導部門】



【管理部門】　※山形県青年の家管理企業体（指定管理者）



令和６年度　研修のあゆみ　―年報―

発　　行　令和７年３月31日
編集・発行　山形県青年の家
〒994-0032　山形県天童市小路一丁目７番８号
ＴＥＬ０２３－６５４－４５４５
ＦＡＸ０２３－６５２－２００７
＜ホームページ＞
URL：https://www.pref.yamagata.jp/701005/kensei/shoukai/soshikiannai/kyoiku/701005html
＜YYボランティアビューロー＞
URL：https://seinen.jp
＜ツイッター＞
URL：https://twitter.com/seinen_yamagata
＜インスタグラム＞
URL：https://www.instagram.com/seinen_yamagata
＜ユーチューブ＞
URL：https://www.youtube.com/@seinen_yamagata
印　　刷　株式会社　大風印刷　営業企画事業部　天童営業所
山形県天童市東久野本一丁目１番45号